

- 問1 幕末に生糸が海外へ大量に輸出されたことは、当時の日本国内の産業にどのような影響を与えましたか。その背景を含めた説明として最も適切なものを選んでください。 (2014年 沖縄県公立入試 類似)
1. 生糸に代わって茶の輸出が急増したため、絹織物業に代わって製茶業が国内最大の産業となった。
 2. 海外から安価な生糸が大量に流入したため、国内の養蚕業が衰退し、米の生産への転換が進んだ。
 3. 輸出が優先されたことで国内の生糸が不足し、価格が高騰したため、国内の絹織物業が圧迫された。
 4. 生糸の輸出で得た利益が絹織物業に還元されたため、最新の機械が導入されて生産効率が飛躍的に向上した。
- 問2 1825年に出された異国船打払令について、江戸幕府は1842年に方針を大きく転換し、遭難した外国船に燃料や水を与える法令を発しました。この方針転換のきっかけとなった、隣国の清がイギリスとの戦争に敗北した出来事を何といいますか。 (2026年 和歌山県公立入試 類似)
1. アヘン戦争
 2. 清仏戦争
 3. 日清戦争
 4. 太平天国の乱
- 問3 19世紀後半、日本の美術が西洋の芸術家に大きな影響を与え、日本文化への関心が急速に高まった現象を「ジャポニスム」と呼ぶ。この現象において、ゴッホやモネといった西洋の画家に多大な影響を与えた、日本の浮世絵師の名前として適切なものはどれか。 (2026年 群馬県公立入試 類似)
1. 横山大観
 2. 雪舟
 3. 葛飾北斎
 4. 歌川広重 (安藤広重) ではなく、明治以降に活躍した人物
- 問4 19世紀後半にプロイセン王国を中心に行われたドイツの統一について、その中心人物と統一の過程について述べた文として正しいものはどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
1. ナポレオン1世がヨーロッパの広範囲を征服したことをきっかけに、各都市が自発的に統合して帝国となった。
 2. 首相ビスマルクが「鉄血政策」と呼ばれる強力な軍備拡張を推進し、武力によって統一を成し遂げた。
 3. 蒸気機関の改良による産業革命の進展に伴い、経済的な利害の一致のみを理由として自然に統合された。
 4. 議会を中心とする話し合いによって、周辺諸国との平和的な話し合いを通じて全ドイツ連邦が統合された。
- 問5 19世紀におけるイギリスとインドの経済関係の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2019年 神奈川県公立入試 類似)
1. イギリス政府が自国の産業を保護するためにインドからの綿花の輸入を禁止したため、インドでは茶や絹の生産が主要な産業となった。
 2. イギリスが産業革命を達成したことで、インドは綿織物の輸出拠点から、イギリス製綿織物の販売市場および原料となる綿花の供給地へと変化した。
 3. イギリスの工場で働く労働者の賃金が上昇したため、インド産の手工業製品が価格競争で優位に立ち、インドの職人の生活は豊かになった。
 4. イギリスが蒸気機関を導入したことで、インド産の綿織物は希少な高級品として珍重されるようになり、19世紀を通じて西欧への輸出額が増え続けた。
- 問6 大老の井伊直弼が「安政の大獄」と呼ばれる大規模な弾圧を強行した歴史的な背景について、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 大阪府公立入試 類似)
1. 不平等条約の改正を求める民衆の暴動を鎮圧し、江戸の治安を維持するために厳しい罰則を設ける必要があったため。
 2. 天皇の許可を得ないまま独断で条約を結んだことや、将軍の後継者問題をめぐって幕府を批判する反対派を排除するため。
 3. オランダ商館長から開国の勧告を受けたことで、速やかに身分制度を廃止し、西洋風の近代国家を樹立しようとしたため。
 4. 藩籍奉還や廃藩置県に反対し、武力による倒幕を計画していた薩摩藩や長州藩の指導者を一掃するため。
- 問7 19世紀前半の貿易統計によると、アジアから西方へ輸出されるある製品の輸出額は、1810年代の約400万ポンドからわずか20年余りで4分の1以下にまで激減しました。この現象の背景にある歴史的状況と、その後に生じた影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 神奈川県公立入試 類似)
1. イギリスで農業革命が起こり、自国での綿花栽培に成功したことでインドからの輸入が不要になり、インドの経済的地位が向上した。
 2. イギリスで産業革命が起こり、安価な機械製綿織物が流入したことでインドの伝統的な手工業が打撃を受け、のちのインド大反乱の一因となった。
 3. イギリスで宗教改革が起こり、贅沢品が禁止されたことでインド産の香辛料の需要が減り、インドの職人が新しい農法を開発した。
 4. イギリスで名誉革命が起こり、自由貿易が制限されたことでインド産の綿花が余り、現地の農民がイギリス政府に感謝の意を示した。
- 問8 南北戦争へと至る当時のアメリカ合衆国の状況について、工業化が進み、奴隷制に反対していた北部の立場を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2023年 大阪府公立入試 類似)
1. 西部の開拓を優先するために保護貿易を求め、奴隷制の存続を容認した。
 2. 農産物の輸出を優先するために自由貿易を求め、奴隷制を維持しようとした。
 3. イギリスとの友好関係を重視して自由貿易を求め、奴隷制の廃止を訴えた。
 4. 自国の工業製品を保護するために保護貿易を求め、奴隷制の拡大に反対した。
- 問9 幕末の社会混乱を描いた資料の中には、人々が「ええじゃないか」と唱えながら町々を熱狂的に踊り歩く姿が記録されています。この騒動の背景と特徴について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
1. 明治政府が推進した文明開化の政策を歓迎し、新しい文化を受け入れるために民衆が自発的に始めた祝祭であった。
 2. 廃藩置県によって自分の領地がなくなることに反対した武士たちが、農民を扇動して起こした政治的な反乱であった。
 3. 鎖国体制を維持しようとする江戸幕府を支持するために、都市の住民が攘夷の決意を固める目的で行ったデモ活動であった。
 4. 社会の仕組みの変革を求める民衆の期待と、先行きの見えない不安が入り混じった世直しの動きの一つであった。
- 問10 19世紀前半、イギリスは清から茶や絹を大量に輸入する一方で、清への銀の流出を食い止めるために、植民地であったインドからある品物を清へ密輸させる仕組みを整えました。この貿易構造において、インドから清へと送られた品物は次のうちどれですか。 (2024年 大分県公立入試 類似)
1. アヘン
 2. 鉄鉱石
 3. 綿織物
 4. 香辛料
- 問11 1858年の条約締結後に本格的な貿易が始まると、日本の社会経済には大きな変化が生じました。当時の貿易の状況を説明した文として正しいものを選んでください。 (2026年 京都府公立入試 類似)
1. 函館が最大の貿易港となり、綿織物が最大の輸出商品であった
 2. 神戸が最大の貿易港となり、鉄鋼が最大の輸入商品であった
 3. 長崎が最大の貿易港となり、茶が最大の輸入商品であった
 4. 横浜が最大の貿易港となり、生糸が最大の輸出商品であった
- 問12 南北戦争において、リンカン大統領が率いる北部の勢力が掲げていた、社会制度および経済政策の方針として適切なものはどれですか。 (2020年 三重県公立入試 類似)
1. 奴隷制を維持することで農業生産力を高め、自由貿易によって海外へ輸出することを主張した。
 2. 奴隷制の拡大に反対し、国内の工業を発展させるために保護貿易を主張した。
 3. 奴隷制の廃止を掲げる一方で、経済面では海外製品を広く受け入れる自由貿易を求めた。
 4. 奴隷制を全面的に容認し、イギリスとの同盟を深めるために自由貿易を推進した。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 輸出が優先されたことで国内の生糸が不足し、価格が高騰したため、国内の絹織物業が圧迫された。	海外での需要が高まり、生糸が大量に輸出された結果、日本国内の市場に出回る生糸が不足しました。これにより生糸の価格が跳ね上がり、原材料を確保できなくなった国内の絹織物業者が苦境に立たされるという経済的な混乱が生じました。
問2	答え 1 アヘン戦争	隣国である清がアヘン戦争（1840年～）でイギリスに大敗したという情報は、長崎の出島を通じて幕府に伝わりました。当時、日本を訪れる外国船を無条件で攻撃する「異国船打払令」を採用していましたが、清のような大国が敗れたことに衝撃を受けた幕府は、イギリスなどの列強を刺激して武力衝突に発展することを避けるため、強硬な姿勢を緩和しました。
問3	答え 3 葛飾北斎	19世紀のヨーロッパでは、万国博覧会などを通じて日本の浮世絵が紹介され、大胆な構図や色彩が西洋の画家に衝撃を与えました。特に葛飾北斎の作品は高く評価され、印象派の画家たちの作風に強く反映されました。横山大観は明治時代から昭和にかけて活躍した日本画家であり、この時期のジャポニスムの源流とは異なります。
問4	答え 2 首相ビスマルクが「鉄血政策」と呼ばれる強力な軍備拡張を推進し、武力によって統一を成し遂げた。	1862年にプロイセン王国の首相に就任したビスマルクは、ドイツの統一問題は言論ではなく「鉄（武器）と血（兵士）」によってのみ解決されると主張しました。この方針の下、プロイセンは軍備を増強し、デンマーク、オーストリア、そしてフランスとの戦争に勝利することで、1871年にドイツ帝国の成立を果たしました。
問5	答え 2 イギリスが産業革命を達成したことで、インドは綿織物の輸出拠点から、イギリス製綿織物の販売市場および原料となる綿花の供給地へと変化した。	産業革命以前、インドは高品質な綿織物を輸出する側でしたが、革命後は立場が逆転しました。イギリスは自国の工場で生産した安価な製品をインドへ大量に輸出し、代わりにインドからは工場での生産に必要な原料としての綿花を安く買い取るようになりました。このように、インドがイギリスの経済体系に従属する形へと構造が変化しましたが、当時の貿易統計における輸出額の急減に現れています。
問6	答え 2 天皇の許可を得ないまま独断で条約を結んだことや、将軍の後継者問題をめぐって幕府を批判する反対派を排除するため。	井伊直弼は、日米修好通商条約を勅許なしに調印したことで、尊王攘夷派から激しい批判を浴びていました。また、13代将軍・徳川家定の次の跡継ぎをめぐる争い（将軍継嗣問題）においても、強引に徳川慶福（のちの家茂）を擁立したため、反対派との対立が深まっていました。これらの批判勢力を一掃し、幕府の権威を立て直すために安政の大獄が引き起こされ、吉田松陰などの志士や公卿、大名が処罰されました。
問7	答え 2 イギリスで産業革命が起こり、安価な機械製綿織物が流入したことでインドの伝統的な手工業が打撃を受け、のちのインド大反乱の一因となった。	18世紀後半からイギリスで始まった産業革命により、綿織物の大量生産が可能になりました。これにより、それまで世界的な輸出品であったインド産の伝統的な手工業による綿織物は、安価なイギリス製機械製品との競争に敗れて輸出が激減しました。この経済的な困窮はインドの人々のイギリスに対する強い不満へとつながり、1857年に発生したインド大反乱（セポイの乱）の背景の一つとなりました。
問8	答え 4 自国の工業製品を保護するために保護貿易を求め、奴隷制の拡大に反対した。	当時のアメリカ北部では産業革命が進んでおり、安価な外国製品に対抗するために高い関税をかける「保護貿易」を求めています。一方で、大規模農園経営（プランテーション）が盛んだった南部は、綿花の輸出のために「自由貿易」を求め、労働力として奴隷制を維持しようとしたため、南北の対立が激化しました。
問9	答え 4 社会の仕組みの変革を求める民衆の期待と、先行きの見えない不安が入り混じった世直しの動きの一つであった。	「ええじゃないか」の騒動は、幕府の権威が衰え、新しい時代への転換期であった1867年頃に発生しました。これは民衆の間で高まっていた「世直し」への渴望や、現実の苦難から逃れようとする熱狂的な心理が結びついた現象であり、幕末の社会的な混乱をさらに加速させる要因となりました。
問10	答え 1 アヘン	イギリスは清との貿易において、茶や絹の代金として支払う銀が不足したため、インドで栽培させたアヘンを清に密輸し、その対価として銀を回収する三角貿易を行いました。このアヘンの流入は清国内に健康被害と経済的な混乱をもたらし、のちの武力衝突の直接的な原因となりました。
問11	答え 4 横浜が最大の貿易港となり、生糸が最大の輸出商品であった	日米修好通商条約によって開港された港のうち、江戸に近い横浜が貿易の最大の中心地となりました。輸出の主力は生糸や茶であり、特に生糸は欧米での需要が高く、日本の輸出額の大部分を占めました。一方、輸入では毛織物や綿織物などが多く入ってきました。
問12	答え 2 奴隷制の拡大に反対し、国内の工業を発展させるために保護貿易を主張した。	北部は資本主義的な工業化が進んでおり、自国の未熟な産業を保護するために高い関税をかける保護貿易を必要としていました。また、自由な労働力を確保する観点からも奴隷制には反対の立場をとっていました。一方の南部は農業中心で、奴隷制の維持と自由貿易を求めていたため、これらの方針の違いが激しい対立を生みました。